

2020年度（令和2年度）

# 学校評価自己評価表

福山市立手城小学校

2020年（令和2年）4月 1日

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

東中学校区	校番 6	福山市立手城小学校
最終更新日		2020年(令和2年)4月10日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・中学校区で課題を的確にとらえ、目標を共有し、授業改善に取り組んでいる。	児童生徒の現状 ・考えや思いを伝え合うコミュニケーション能力や相手を思いやる心が育ちつつある。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や課題解決のための情報収集力に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)  中学校区として統一した取組等	課題発見・解決力、表現する力、認め合う態度  自己を認識する力、自己決定する力、表現する力をもった子  ・学びを楽しむ児童の育成(主体的な学びの推進) ・よりよい生活を考えて行動する児童の育成(長期欠席者ゼロへの取り組み) ・社会に貢献する児童の育成(E S D教育への取り組み)
---	---	---	--

III 自校

ミッション 学校・地域・家庭が一体となって「ふるさと福山」に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる手城の子どもを育てる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力課	表現する力表	認め合う態度認
学校教育目標 自他を認め、主体的に生きる力をもった児童の育成	めざす子ども像	低学年 学習や生活の中から進んでふしぎを見つけ出す子	自分の思いや考えを、進んで相手に伝える子	友達の気持ちが分かる子
現 状 ＜児童生徒＞ ・標準学力調査において、全国平均を上回ることができた項目は、62.5%であった。基礎学力は定着しつつあるが、思考力・表現力に課題がある。 ・自ら課題を見付け追及したり、コミュニケーションをとりながら学び合い、表現活動をしたりに課題がある。 ・校内では、規律ある行動ができ、落ち着いた学校生活を送ることはできている。一方で、校外での生活は、校内の生活が生かされていない。また、自分に自信の持てない児童もおり、自己有用感を高めていく必要がある。 ・新体力テストにおいて、県平均以上の項目は49%であった。特に50m走に課題がある。長期欠席者は減少しているが、欠席する児童は固定化している。 ＜授業＞ ・主体的な学びを実現するために、教師の授業力を高めていく必要がある。 ・体験的活動や協同的学習の場や工夫が不十分である。	中学年 進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子	進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子	ペアやグループで、互いの思いや考えを伝え合う子	相手のことを思いやり、進んで親切にする子
	高学年 自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子	自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子	伝え合いを通して、自分や友だちの考えをよりよいものにする子	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子
	研究	教科等 主題・内容等	道徳 図画工作 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成 自ら考え学び、自分の思いを生き生きと表現できる児童の育成	
	めざす授業の姿	『学び合い』によって学びを楽しむ子どもを育てる授業 ・児童同士で授業内容を説明し合っている。(思いやりのある関わりがある) ・課題解決に向けて、主体的・協働的に考えている姿がある。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立手城小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70%以上 達成 評価	70%以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70%以上 達成 評価	70%以上 達成 評価	総合 評価
1	主体的な学び の推進  学びを楽しむ 児童の育成	★	新規	「学び合い」学 習を全教室展 開	○学び合い学習に取 り組む授業を 70%以上の実施。	○授業が楽しい と答える児童 が90%以上。 ○よくわかると 答える児童が 85%以上。								
			新規	家庭学習の個 別化・自己決定	○週2回以上、自分の 学習課題をもとにチ ャレンジノートに取 り組む内容を決め る。	○自分で選ぶこ とができる児 童が70%以 上。 ○家庭学習の計 画をたてるこ とができる 児童が60%以 上。								
1	長期欠席者セ ンへの取組  よりよい生活 を考え、行動 する児童の育 成	★	継続	自己有用感を 育む児童会活 動  自分の生活を 自己管理する 力	○全校で学期に1 回以上よいとこ ろ見つけの活動 に取り組む。 (各学級では月1 回以上)  ○学期に1回、睡眠 時間と外遊びの 回数の目標を設 定させ、自分の生 活課題を捉え、新 たな生活目標を 立てさせる。	○自分にはよい ところがある と答える児童 が90%以上 ○学校が楽しい と答える児童 が90%以上  ○規則正しい生 活と体力づく り80%以上								

1	ESD教育への取組 地域に関する児童の育成	継続	SDGs と関連付けた ESD 教育の推進  地域人材によって広げる学びの場の設定	○ SDGsのゴール17項目をカリキュラムマップ上に位置付け,教科等の関連を明確にした単元計画を作成する。  ○地域人材を活用したり,地域に関わったりする単元計画を立てる。	○全学年1単元以上の実施100%。  ○年間2回以上実施100%。													
1	教職員の元気・笑顔	新規	元気に児童と向き合う職場環境を作る。	○児童のためになにができるかを常に語れる職員室にする。  ○1日の時間外勤務時間を2時間以内にする。	○仕事に意義とやりがいを感じている教職員95%以上。  ○時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員0人。													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ,状況の変化,問題が生じた際は,協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し,十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ,状況の変化,問題が生じた際は,協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し,望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ,状況の変化,問題が生じた際は,協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し,一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く,状況の変化,問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り,成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず,状況の変化,問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り,成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。